

千葉公立 学力検査「受験者平均点」推移

(千葉県教育委員会の集計値)

教科	配点 (時間)	前期選抜										配点 (時間)	後期選抜										配点 (時間)	一般選抜	
		2011 (平成23)	2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019 (平成31)	2020 (令和2)		2011 (平成23)	2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019 (平成31)	2020 (令和2)		2021 (令和3)	2022 (令和4)
国語	100点 (50分)	47.1	48.7	44.7	52.3	48.5	57.0	60.8	63.2	54.2	46.0	100点 (40分)	52.0	43.9	52.6	57.6	55.9	56.7	67.2	55.7	59.2	54.7	100点 (50分)	52.8	47.7
社会	100点 (50分)	52.2	54.6	44.9	48.8	58.1	56.6	53.8	52.9	56.6	60.7	100点 (40分)	50.4	54.5	56.5	60.0	64.2	62.1	61.6	56.0	65.8	62.1	100点 (50分)	57.7	56.3
数学	100点 (50分)	48.8	43.2	46.5	52.6	46.9	47.4	51.4	58.5	54.5	51.4	100点 (40分)	50.5	43.9	55.4	52.8	57.1	57.9	58.8	62.0	61.0	59.0	100点 (50分)	59.3	51.5
理科	100点 (50分)	58.6	57.7	45.5	43.9	57.1	46.3	56.4	60.0	60.6	48.8	100点 (40分)	57.0	58.3	56.4	54.8	62.4	51.0	61.6	67.5	61.6	59.7	100点 (50分)	54.6	52.7
英語	100点 (50分)	52.1	54.2	50.6	54.2	55.9	50.3	53.7	59.7	53.6	54.6	100点 (40分)	48.1	62.2	50.3	55.5	54.5	60.9	57.7	49.7	61.9	51.5	100点 (60分)	61.7	58.7
5教科合計	500点	258.9 (51.8%)	258.4 (51.7%)	232.3 (46.5%)	251.9 (50.4%)	266.5 (53.3%)	257.5 (51.5%)	276.1 (55.2%)	294.3 (58.9%)	279.6 (55.9%)	261.6 (52.3%)	500点	258.1 (51.6%)	262.8 (52.6%)	271.2 (54.2%)	280.7 (56.1%)	294.2 (58.8%)	288.7 (57.7%)	306.9 (61.4%)	290.9 (58.2%)	309.5 (61.9%)	287.2 (57.4%)	500点	286.2 (57.2%)	266.7 (53.3%)

令和4年度

千葉県公立高等学校入学者選抜 学力検査結果の概要

千葉県教育委員会

目 次

I	概 要	2
II	出題方針（本検査・追検査共通）	4
III	【本検査】教科別の結果	6
IV	【本検査】受検者の得点分布	16
V	【追検査】教科別の結果	18
VI	【追検査】受検者の得点分布	28
VII	指導のポイント	30

I 概 要

1 はじめに

令和４年度千葉県公立高等学校入学者選抜では、一般入学者選抜等の本検査及び追検査において学力検査を実施した。その結果等をもとに作成した「学力検査結果の概要」を、本県中学校及び高等学校において教科指導向上のための資料の一つとして御活用願いたい。

2 実施日、教科

本検査の学力検査は、令和４年２月２４日（木）に国語・数学・英語、２５日（金）に理科・社会を、国語・社会・数学・理科は各教科５０分、英語は６０分、各１００点満点で実施した。

追検査の学力検査は、令和４年３月３日（木）に国語・社会・数学・理科・英語を、国語・社会・数学・理科は各教科５０分、英語は６０分、各１００点満点で実施した。

3 調査の対象

本結果は、令和４年度千葉県公立高等学校入学者選抜における一般入学者選抜の本検査及び追検査の学力検査で、全日制の課程（特別入学者選抜、地域連携アクティブスクール４校を除く）を受検した者（本検査では第１日３３，５７８名、第２日３３，５６６名、追検査では１７４名）の結果等についてまとめたものである。

なお、本検査の正答率・無答率については、各教科とも全日制の課程の全受検者のうちから抽出した答案（全体の約１０％）によって算出した。

4 学力検査問題の特徴

学力検査問題の作成に当たっては、各教科とも中学校学習指導要領に基づき、総合的な力をみることができるよう配慮した。

令和４年度の学力検査問題の特徴は、次の２点である。

- 基礎的・基本的な事項の正確な理解度をみることができるよう、複数の解答について全て正しい場合にのみ正解とする問題や、理由を書かせる問題を設定した。
- 学習した基礎的な知識を応用して答えを導く問題や思考力、判断力、表現力等を総合的にみることができるような問題を設定した。

上記２点を柱に、各教科の特質に応じた「見方・考え方」に基づき、確かな学力を身に付けているかをみる問題を充実させた。

5 結果の概要

【表】各教科及び5教科の平均点

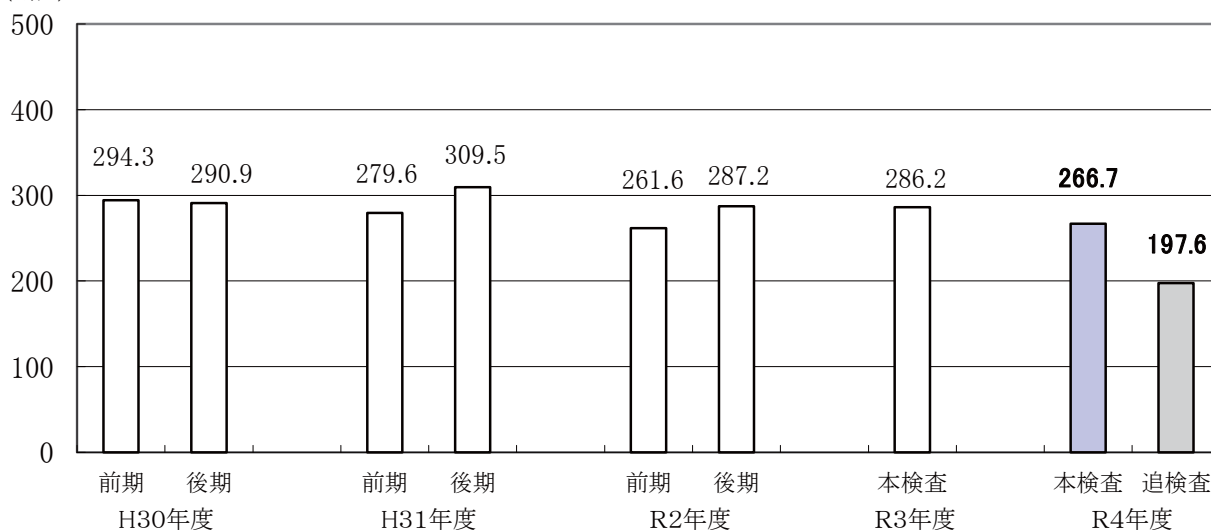
()内は標準偏差

		国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	5 教 科
令和 4 年度	本検査	47.7 (16.7)	56.3 (21.3)	51.5 (21.2)	52.7 (21.4)	58.7 (23.9)	266.7 (94.3)
	追検査	50.6 (16.9)	50.3 (23.2)	38.6 (20.0)	45.1 (20.2)	46.9 (23.5)	197.6 (109.0)
令和 3 年度	本検査	52.8 (17.7)	57.7 (21.3)	59.3 (21.3)	54.6 (18.7)	61.7 (26.1)	286.2 (94.0)
	追検査						
令和 2 年度	前期	46.0 (17.3)	60.7 (22.6)	51.4 (19.8)	48.8 (17.8)	54.6 (22.9)	261.6 (90.6)
	後期	54.7 (16.5)	62.1 (20.8)	59.0 (18.9)	59.7 (21.5)	51.5 (24.2)	287.2 (92.6)

※令和3年度追検査については、受検者が少ないことから、平均点を記していない。

【図】5教科の平均点の経年変化

(点)



各教科及び5教科の平均点は、【表】に示したとおりである。

また、5教科の平均点の経年変化を【図】に示した。令和4年度の本検査及び追検査の5教科の平均点を見ると、本検査は前年度より19.5点低く、追検査は前年度本検査よりも88.6点低かった（令和3年度追検査については、受検者が少ないことから、平均点を記していない）。

なお、受検者の得点分布については、本検査は16、17ページ、追検査は28、29ページに示した。

Ⅱ 出 題 方 針（本検査・追検査共通）

1 国 語

- ア 学習指導要領に基づき、国語の基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができるようにした。
- イ 様々な文章について、内容を的確に理解し、書き手の伝えたいことなどを考察する力をみることができるようにした。
- ウ 自分の立場や考えとその根拠が明確になるように、複数の情報を整理し判断する力をみることができるようにした。
- エ 言葉による見方・考え方を働かせ、自分の言葉で考えを適切にまとめたり、相手に的確に伝えたりする力をみることができるようにした。

2 社 会

- ア 学習指導要領に基づき、地理的分野、歴史的分野及び公民的分野からバランスよく出題し、学習の成果を総合的にみることができるようにした。
- イ 基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができるようになるとともに、現代社会の諸問題に対する理解の程度をみることができるようにした。
- ウ 統計や地形図、写真などの諸資料を活用し、社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を判断・分析する力、そしてそれを表現する力をみることができるようにした。
- エ 現代社会の諸課題の解決に向けて、多面的・多角的に考察する力や筋道を立てて思考する力をみることができるようにした。

3 数 学

- ア 学習指導要領に基づき、数学的な見方・考え方を働かせながら行う数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を身に付けているかをみることができるようにした。
- イ 数学の基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができるようにした。
- ウ 数学を活用して事象を論理的に考察する力、統合的・発展的に考察する力及び表現する力をみることができるようにした。
- エ 問題解決のために、数学を活用して粘り強く考える力をみることができるようにした。

4 理 科

- ア 学習指導要領に基づき、第1分野、第2分野からバランスよく出題し、学習の成果を総合的にみることができるようにした。
- イ 自然の事物・現象についての基礎的・基本的な事項の知識や、観察、実験の技能を身に付けているかをみることができるようにした。
- ウ 観察、実験のデータ及び図や表などを活用し、理科の見方・考え方を働かせ、結果を分析して解釈する力、そしてそれを表現する力をみることができるようにした。
- エ 日常生活の中で起こる現象や身近な事物について進んで関わり、科学的に探究しようとしているかをみることができるようにした。

5 英 語

- ア 学習指導要領に基づき、英語の基礎的・基本的な知識及び技能と、英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、理解したり表現したりする力を全領域にわたり身に付けているかをみることができるようにした。
- イ 「聞くこと」の領域では、音声を通して、対話文やまとまりのある文章から話し手の意向や大切な事柄を聞き取り、適切に判断して答える力をみることができるようにした。
- ウ 「読むこと」の領域では、日常的、社会的な話題に関する文章や図表、イラスト等から、必要な情報、概要や要点を読み取り、適切に答える力や、読み取った情報を基に思考し、判断する力をみることができるようにした。
- エ 「話すこと〔やり取り〕」及び「話すこと〔発表〕」と「書くこと」の領域では、日常的、社会的な話題について、基本的な語句や文を用いて話したり伝え合ったりする力及び自分の考えなどを英語でまとめ、適切に書く力をみることができるようにした。

Ⅲ 【本検査】教科別の結果

1 国 語（本検査）

（１）出 題 内 容 等

学習指導要領の趣旨に沿って、基礎的・基本的な〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕が適切にみることができるようにした。

大問一（聞き取り検査）は、中学生がテレビ番組で見た映像について友人に伝える場面を聞いて、他者に分かりやすく伝わるような話の展開や表現を考える問題である。

大問四（説明的な文章）(4)は同じ著作の関連する箇所を、大問五（文学的な文章）(5)及び大問六（古典）(5)は授業でそれぞれの文章を読んだ生徒の話合いの場面や感想文を、別資料として提示し、複数資料の分析を通じてさらに深く読み解き、適切に自分の考えを表現する力をみる問題である。

大問七（条件作文）は、「大人とはどういう人か」について、生徒二人の会話を手がかりに自分の考えを整理して、分かりやすく伝わる文章になるように工夫して書く問題である。

（２）正 答 率 の 概 況

抽出答案数＝3,376

領 域（事 項）	問 題・配 点	正答率（％）
言葉の特徴や使い方に関する事項	二、三、四(1) 20点	53.9
情報の扱い方に関する事項	四(4)、五(5)、六(5) 23点	22.8※
我が国の言語文化に関する事項	六(1)(2)(3)(4) 11点	72.5
話すこと・聞くこと	一 8点	80.6
書くこと	七 12点	41.8※
読むこと	四(2)(3)(5)、五(1)(2)(3)(4) 26点	48.0※

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

（３）結 果 の 説 明

全体の平均点は47.7点で、前年度と比べて5.1点低くなった。

領域（事項）別の正答率は、「話すこと・聞くこと」が80.6％と最も高く、次いで、「我が国の言語文化に関する事項」が72.5％であった。一方、「情報の扱い方に関する事項」が22.8％と最も低かった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題は、大問二「漢字（読み）」の(1)「勸（める）」、大問一「放送による聞き取り」の(1)「会話の理解」及び(2)「会話の流れの理解」であった。逆に正答率が低かった問題は、大問五の(2)「文章中の表現の理解（5字）」、大問五の(5)(c)「文章中の表現についての理解と表現（20字以上、25字以内）」及び大問二「漢字（読み）」の(4)「陶冶」であった。

無答率が高かった問題は、大問五の(5)(c)「文章中の表現についての理解と表現（20字以上、25字以内）」、大問六の(5)(b)「登場人物の心情及び文章の内容の理解と表現（20字以上、25字以内）」及び大問五の(5)(a)「文章中の表現についての理解（6字）」であった。

(4) 問題の内容

問			問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
					選 択	短 答	記 述			
一	(1)	放送による 聞き取り テレビ番組で見た映像に ついて伝える場面	会話の理解	○			93.8	0.0		
	(2)		会話の流れの理解	○			86.8	0.0		
	(3)		会話の流れの理解	○			68.8	0.3		
	(4)		会話の流れを受けてのまとめ	○			72.8	0.2		
二	(1)	漢字 (読み)	勸(める) [すす]		○		95.9	0.1		
	(2)		朗詠 [ろうえい]		○		79.8	2.1		
	(3)		鋭敏 [えいびん]		○		51.9	3.7		
	(4)		陶冶 [とうや]		○		3.9	6.8		
三	(1)	漢字 (書き)	告(げる)		○		76.4	14.2		
	(2)		延(べ)		○		20.7	25.2		
	(3)		寒暖		○		66.4	4.4		
	(4)		破格		○		50.5	21.3		
	(5)		旧態		○		7.1	31.3		
四	(1)	説明的な文章 『人生は凸凹だから 面白い』	同音異義語	○			86.4	0.5		
	(2)		文章の内容の理解	○			78.2	0.9		
	(3)		I	文章の内容の理解(10字)		○		52.5	14.6	
			II	4点	文章の内容の理解と表現 (5字以上、10字以内)			○	17.7	29.2
				1～3点					2.3	
	(4)		I	4点	文章の内容の理解と表現 (10字以上、15字以内)			○	12.0	30.5
				1～3点					2.2	
			II、III	文章の内容の理解と表現(II、IIIともに5字 以上、10字以内で完答)			○	19.6	29.6	
	(5)		文章中の表現の理解	○				72.8	2.8	
	五		(1)	文学的な文章 『手のひらの音符』	登場人物の心情の理解	○			68.9	0.6
(2)		文章中の表現の理解(5字)			○		0.6	3.1		
(3)		登場人物の心情の理解	○				53.9	1.5		
(4)		I	文章の内容の理解と表現(5字以内)			○		42.8	14.8	
		II	文章の内容の理解(3字)			○		64.6	11.5	
		III	4点		文章の内容の理解と表現 (5字以上、10字以内)			○	22.6	35.8
1～3点			9.0							
(5)		(a)	文章中の表現についての理解(6字)			○		23.2	50.7	
		(b)	文章中の表現についての理解(5字)			○		22.0	40.3	
		(c)	4点		文章中の表現についての理解と表現 (20字以上、25字以内)			○	1.4	70.9
			1～3点						1.7	
			無答							
六		(1)	古典 『ものくさ太郎』		歴史的仮名遣い		○		85.5	4.3
	(2)	登場人物の心情の理解		○			63.1	4.9		
	(3)	文章の内容の理解		○			68.2	5.5		
	(4)	文章の内容の理解		○			73.3	7.7		
	(5)	(a)		漢文訓読法		○		59.8	9.2	
		(b)		登場人物の心情及び文章の内容の理解と表現 (20字以上、25字以内)			○	15.4	56.6	
								4点		8.0
	無答									
七	12点	条件作文 「大人とはどういう人か」 について	条件をふまえて書く二段落構成の作文 (200字以内) ・前段は中学生二人の考え方を整理する ・後段は中学生二人の考え方をふまえて 自分の意見を理由とともに具体的に書く			○	10.7	8.6		
	8～11点						23.5			
	4～7点						22.7			
	1～3点						12.7			
	無答									

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

2 社 会（本検査）

（１）出 題 内 容 等

各分野において、「基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができる問題」を出題した。

「現代社会の諸課題に対する関心や理解の程度をみることができる問題」を多く出題した。具体的には、大問**3**(4)、大問**6**(3)、大問**7**(3)、大問**8**(2)である。

「諸資料を活用し、社会的事象を判断・分析する力をみることができる問題」を多く出題した。具体的には、大問**1**(4)、大問**2**(3)、大問**3**(4)、大問**3**(5)、大問**6**(3)、大問**7**(3)である。

「社会的事象について、思考・表現する力をみることができる問題」を、地理的分野、歴史的分野、公民的分野からそれぞれ1問ずつ出題した。具体的には、大問**3**(4)、大問**5**(5)、大問**7**(3)である。

総合問題と歴史的分野において、できごとなどを年代の古いものから順に並べ替える問題を、総合問題から1問、歴史的分野から2問出題した。具体的には、大問**1**(3)、大問**4**(1)、大問**5**(4)である。

（２）正 答 率 の 概 況

抽出答案数＝3,372

分 野 ・ 内 容		問 題・配 点	正答率（％）	
総 合	総 合 問 題	1 12点	51.0	
地理的分野	日 本 地 理	2 15点	70.3	65.9※
	世 界 地 理	3 16点	61.6※	
歴史的分野	前 近 代 史	4 15点	47.3	48.8※
	近 ・ 現 代 史	5 16点	50.2※	
公民的分野	国民生活と経済・社会	6 10点	57.3	56.0※
	日 本 の 政 治 制 度	7 10点	53.0※	
	国 際 社 会	8 6点	58.5	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

（３）結 果 の 説 明

全体の平均点は56.3点で、前年度と比べて1.4点低くなった。

分野・内容別の正答率は、地理的分野の「日本地理」が70.3％と最も高く、歴史的分野の「前近代史」が47.3％と最も低かった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題は、大問**1**(2)「A P E C」、大問**8**(1)「S D G s」、大問**2**(4)①「地形図の方位や地図記号等の読み取り」、大問**2**(4)②「地形図の距離の読み取り」であった。逆に正答率が低かった問題は、大問**6**(2)「C S R（企業の社会的責任）」、大問**4**(1)「飛鳥時代に関すること」がら、大問**5**(5)「サンフランシスコ平和条約についての記述」であった。

無答率が高かった問題は、大問**5**(5)「サンフランシスコ平和条約についての記述」、大問**6**(2)「C S R（企業の社会的責任）」、大問**7**(1)「地方自治」であった。

(4) 問題の内容

問			問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)
				選 択	短 答	記 述		
1	(1)	総合問題	原油（石油）		○		44.0	1.7
	(2)		A P E C	○			83.7	0
	(3)		15世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパに関係すること がら	○			47.7	0
	(4)		国民総所得の推移、国土面積、小麦及び米の生産量、牧場・ 牧草地の面積に関する資料の読み取り	○			28.4	0.2
2	(1)	日本地理	7 地方区分と前橋市	○	○		56.0	2.0
	(2)		地熱発電		○		73.6	1.5
	(3)		地図と統計資料から愛知県と愛媛県の読み取り	○			58.7	0.1
	(4)		① 地形図の方位や地図記号等の読み取り	○			81.9	0.2
			② 地形図の距離の読み取り	○			81.4	0.2
3	(1)	世界地理	本初子午線とミラー図法中における面積	○			50.5	0.1
	(2)		時差	○			66.0	0.8
	(3)		マチュピチュとアンデス山脈	○	○		47.8	1.2
	(4)		モノカルチャー経済についての記述			○	57.4	
							9.3	
								7.6
(5)	アメリカ合衆国、インド、中国及び日本の人口、国土面積 及び年齢別人口割合に関する資料の読み取り	○			81.4	0.1		
4	(1)	前近代史	飛鳥時代に関すること	○			26.7	0.1
	(2)		平安時代に関すること	○			61.8	0.1
	(3)		鎌倉幕府の滅亡	○			44.7	0.1
	(4)		武家諸法度と京都所司代	○	○		30.8	1.4
	(5)		書院造		○		72.3	7.5
5	(1)	近・現代史	五箇条の御誓文	○			60.0	0.1
	(2)		日清戦争から日露戦争までのこと	○			67.3	0.1
	(3)		第一次世界大戦のはじまり	○			60.7	0.0
	(4)		ベルサイユ条約締結から第二次世界大戦終結までのこと	○			36.3	0.2
	(5)		サンフランシスコ平和条約についての記述			○	18.1	
							17.6	
		17.2						
6	(1)	経済	経済のしくみ	○			80.1	0.1
	(2)		C S R（企業の社会的責任）		○		22.8	15.3
	(3)		食品ロス量の推移に関する資料の読み取り	○			69.1	0.3
7	(1)	政治	地方自治		○		43.4	15.3
	(2)		選挙制度	○			64.1	1.0
	(3)		一票の格差についての記述			○	46.6	
							9.7	
								10.0
8	(1)	国際	S D G s		○		83.7	3.3
	(2)		パリ協定	○			33.2	0.3

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

3 数 学（本検査）

（１）出 題 内 容 等

新学習指導要領の全面実施にともない、本検査の問題構成を変更した。昨年度までの大問 **１**、**２**を統合した大問 **１**は、各領域の基本的な問題である。

大問 **２**の(3)は、与えられた長方形を傾けたとき、傾いた長方形の２つの頂点を通る直線の式を、図形の性質を利用しながら求める問題である。

大問 **３**は、２つの三角形が合同であることを証明するとともに、図形の性質を利用して、三角形と四角形の面積比を求める問題である。

大問 **４**は、円周上を移動する２つの点の動きを一次関数で捉え、変化の特徴を見だし、式やグラフで表すなど、思考し、判断し、表現する力を問う問題となっている。

（２）正 答 率 の 概 況

抽出答案数＝3,378

領 域 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点	正 答 率（％）	
数 と 式	正の数と負の数	１ (1)①、(4)① 8点	73.0	66.4
	文字を用いた式	１ (1)②、(2)①、(6)① 11点	72.5	
	正の数の平方根	１ (1)③ 5点	75.2	
	連立二元一次方程式	１ (5) 6点	70.6	
	二 次 方 程 式	１ (2)② 3点	17.9	
図 形	平 面 図 形	１ (7)、 ３ (3) 11点	26.9	43.2※
	空 間 図 形	１ (6)② 3点	51.4	
	図 形 の 合 同	３ (1)、(2) 11点	55.5※	
関 数	一 次 関 数	２ (2)、(3)、 ４ 28点	33.6	38.4
	関 数 $y = ax^2$	２ (1) 5点	76.1	
データの活用	デ ー タ の 分 布	１ (3) 6点	46.6	51.2
	確 率	１ (4)② 3点	60.3	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

（３）結 果 の 説 明

全体の平均点は51.5点で、前年度と比べて7.8点低くなった。

領域・内容別の正答率は、関数の「関数 $y = ax^2$ 」が76.1％と最も高く、数と式の「二次方程式」が17.9％と最も低かった。

また、次の表にあるように、数と式の領域では、大問 **１**の(1)①「正の数と負の数（四則計算）」の正答率が96.6％と最も高く、大問 **１**の(2)②「二次方程式（解の公式）」の正答率が17.9％と最も低かった。

図形の領域では、大問 **３**の(1)「図形の合同」の正答率が78.6％と最も高く、大問 **３**の(3)「平面図形（相似の応用）」の正答率が5.5％と最も低かった。

関数の領域では、大問 **４**の(1)(a)「一次関数（事象と一次関数）」の正答率が86.5％と最も高く、大問 **２**の(3)「一次関数（一次関数の式）」の正答率が1.5％と最も低かった。

データの活用の領域では、大問 **１**の(3)①「データの分布（中央値）」の正答率が74.1％と最も高く、大問 **１**の(3)②「データの分布（箱ひげ図）」の正答率が19.1％と最も低かった。

無答率が高かった問題は、大問 **２**の(3)「一次関数（一次関数の式）」、大問 **４**の(5)「一次関数（事象と一次関数）」であった。

(4) 問題の内容

問			問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)
					選 択	短 答	記 述		
1	(1)	①	数 と 式	正の数と負の数（四則計算）		○		96.6	0.0
		②		文字を用いた式（一次式の計算）		○		88.9	1.2
		③		正の数の平方根（根号を含む式の計算）		○		75.2	1.7
	(2)	①		文字を用いた式（文字を用いた式で表す）		○		62.5	4.1
		②		二次方程式（解の公式）		○		17.9	13.7
	(3)	①	デー タ	データの分布（中央値）		○		74.1	0.8
		②		データの分布（箱ひげ図）		○		19.1	13.5
	(4)	①	数と式	正の数と負の数（素数）		○		49.3	1.7
		②	デー タ	不確定な事象の起こりやすさ（確率）		○		60.3	5.4
	(5)	a	数と式	連立二元一次方程式（連立方程式の意味）		○		74.1	6.3
		b		連立二元一次方程式（連立方程式の意味）		○		67.1	6.7
	(6)	①		文字を用いた式（等式の変形）		○		66.1	9.5
		②		図 形	空間図形（正四角錐の体積）		○		51.4
	(7)				平面図形（作図）			○	48.2
2	(1)		関 数	関数 $y = ax^2$ （比例定数）		○		76.1	4.9
	(2)			一次関数（一次関数の式）		○		65.1	14.7
	(3)			一次関数（一次関数の式）		○		1.5	72.2
3	(1)		図 形	図形の合同	○	○		78.6	0.1
	(2)	6点		図形の合同（三角形の合同の証明）				28.2	
		3点					○	8.3	
		無答							
	(3)			平面図形（相似の応用）		○		5.5	39.1
4	(1)	(a)	関 数	一次関数（事象と一次関数）	○			86.5	1.7
		(b)		一次関数（事象と一次関数）	○			57.1	4.9
	(2)			一次関数（一次関数のグラフ）			○	28.9	26.8
	(3)			一次関数（事象と一次関数）		○		17.5	26.4
	(4)			一次関数（事象と一次関数）		○		8.1	34.5
	(5)			一次関数（事象と一次関数）		○		4.4	52.2

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

4 理 科（本検査）

（１）出 題 内 容 等

学習指導要領に基づいて、基礎的・基本的な知識・技能の習得、理科の見方・考え方や思考力・判断力・表現力を身に付けているかをみることができるようにした。本年度も「観察・実験を題材とした問題」、「身近な生活に関わりのある問題」を出題した。小問集合以外では、「観察・実験を題材とした問題」は大問 **２・３・４・５・６・７・９**、「身近な生活に関わりのある問題」は大問 **４・６・８**である。表現力をみる問題として、理由を自分の言葉で説明する記述式の問題や、作図やグラフの問題を取り入れている。記述式は、昨年度の本検査 3 問に対し、本年度の本検査では 5 問である。作図やグラフは、昨年度の本検査 3 問に対し、本年度の本検査では 2 問である。

（２）正 答 率 の 概 況

抽出答案数＝3,376

分 野 ・ 内 容			問 題 ・ 配 点	正 答 率（％）	
第 1 分 野	物 理	力の大きさとばねののび	1(1) 3 点	67.2	51.0
		電流とその利用	5 10 点	45.4	
		運動とエネルギー	7 12 点	52.6	
	化 学	水の電気分解の化学反応式	1(2) 3 点	36.3	48.5
		身の回りの物質	3 10 点	48.9	
		化学変化とイオン	9 12 点	51.1	
第 2 分 野	生 物	発生	1(3) 3 点	70.2	61.3
		いろいろな生物とその共通点	2 12 点	83.5	
		生物の体のつくりとはたらき	8 10 点	36.9	
	地 学	震度	1(4) 3 点	85.8	47.7※
		気象とその変化	4 10 点	36.0	
		地球と宇宙	6 12 点	49.9※	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

（３）結 果 の 説 明

全体の平均点は 52.7 点で、前年度と比べて 1.9 点低くなった。

大問 **1** は各分野の基礎的・基本的な知識を問う小問集合であり、正答率の平均が 64.9％であった。大問 **1** 以外の分野・内容別の正答率は、第 2 分野・生物の大問 **2** 「いろいろな生物とその共通点」が 83.5％と最も高く、次いで第 1 分野・物理の大問 **7** 「運動とエネルギー」が 52.6％であった。逆に、第 2 分野・地学の大問 **4** 「気象とその変化」が 36.0％と最も低かった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題（ただし、各分野の小問集合である大問 **1** を除く）は、大問 **2** の(2)「動物の歯のつくりと特徴」、大問 **3** の(2)「気体になったときの粒子の様子」及び大問 **2** の(3)「相同器官」であった。逆に、正答率が低かった問題は、大問 **4** の(3)「低気圧に伴う 2 本の前線〔作図〕」、大問 **7** の(4)「衝突後の木片が移動した距離〔計算〕」及び大問 **3** の(1)「分子からできている物質」であった。

無答率が高かったのは、大問 **9** の(4)「硫酸銅水溶液中の銅板で起こっている化学変化の化学反応式」、大問 **5** の(3)(b)「回路を流れる電流の大きさ」及び大問 **7** の(3)「運動エネルギーの変化〔作図〕」であった。

(4) 問題の内容

問	問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)
		選択	短答	記述		
1	(1) 力の大きさとばねののび〔計算〕		○		67.2	3.1
	(2) 水の電気分解の化学反応式の説明	○			36.3	0.9
	(3) 受精卵		○		70.2	2.8
	(4) 震度		○		85.8	1.1
2	(1) ライオンの目のつき方により役立っていること			○	80.2	2.3
	(2) 動物の歯のつくりと特徴	○			94.9	0.0
	(3) 相同器官		○		83.6	4.6
	(4) 脊椎動物のなかま分け	○			75.1	0.3
3	(1) 分子からできている物質	○			18.5	0.3
	(2) 気体になったときの粒子の様子	○			86.1	0.1
	(3) ① 液体から気体になったときの質量や体積の変化〔計算〕		○		24.4	16.7
	② エタノールが固体になるときの温度	○			66.6	1.7
4	(1) 大陸からふき出す空気の性質の変化	○			73.5	0.4
	(2) 冬に吹く北西の風と高気圧の特徴		○		37.7	2.1
	(3) 低気圧に伴う 2 本の前線〔作図〕			○	12.5	20.5
	(4) 山をこえる空気が失った水蒸気の量〔計算〕		○		20.1	21.5
5	(1) オームの法則		○		79.4	5.3
	(2) 抵抗のつなぎ方による電圧と電流の関係〔計算〕	○			34.2	2.0
	(3) (a) 電流によって発生する熱量〔計算〕		○		46.7	10.3
	(b) 回路を流れる電流の大きさ			○	21.2	28.4
6	(1) 3点				47.3	/
	1～2点			○	6.6	
	無答					
	(2) 水星と土星	○			67.9	0.2
	(3) 金星の見え方（形）	○			58.9	0.4
	(4) 金星や火星が見える時間帯と方位〔計算〕	○			22.1	1.6
7	(1) 重力の向き	○			82.1	0.5
	(2) 衝突後の木片が移動した距離と球を置く高さ、球の質量との関係〔計算〕		○		66.5	1.8
	(3) 運動エネルギーの変化〔作図〕			○	46.0	24.3
	(4) 衝突後の木片が移動した距離〔計算〕		○		15.8	22.4
8	(1) 刺激が伝わる経路	○			30.4	1.3
	(2) 腕を曲げるときの筋肉の動き	○			39.2	2.2
	(3) 反射とその例	○	○		37.7	2.0
	(4) 意識して起こす反応の反応時間が長い理由			○	40.3	10.9
9	(1) 電流の向きとプラス極の金属	○			50.9	3.4
	(2) 亜鉛と銅を比べたときのイオンへのなりやすさ			○	62.9	18.3
	(3) 硫酸亜鉛水溶液中での陽イオンの変化	○			58.1	6.3
	(4) 硫酸銅水溶液中の銅板で起こっている化学変化の化学反応式		○		32.6	31.0

※ 無答率の「0. 0 %」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0 %」は該当者がいない場合である。

5 英 語（本検査）

（１）出 題 内 容 等

出題内容は、知識や理解力をみる基礎・基本の問題及び、活用・応用として「思考力・判断力・表現力」をみる問題を出題した。「思考力・判断力・表現力」をみる問題に該当するのは、大問**4**No.2①、大問**6**、大問**7**(1)④、大問**7**(2)①及び大問**9**(4)である。

大問**4**No.2①はリスニング問題で、英語の文章を聞き、その内容について答える問題である。聞いた内容を「理解」した上で、まとめの文を完成させるために適切な単語を「思考・判断」して書く形式になっている。

大問**6**は英作文問題で、絵を見て状況を「理解」し、絵の中の人物の立場に立って「思考・判断」し、英文で適切に「表現」する問題であり、実践的なコミュニケーションをより強く意識した問題となっている。

大問**7**(1)④、大問**7**(2)①及び大問**9**(4)は、英文から複数の情報を正しく読み取り、内容を「理解」したうえで「思考・判断」し、適切に「表現」する問題になっている。

（２）正 答 率 の 概 況

抽出答案数＝3,378

領 域 ・ 内 容		問題・配点	正答率（％）	
聞くこと (話すこと)	リスニングテスト（対話を聞いて答える）	1 9点	68.4	64.1
	リスニングテスト（聞いて絵を見て答える）	2 6点	68.7	
	リスニングテスト （対話やまとまりのある文章を聞いて答える）	3 6点	83.9	
	リスニングテスト（まとまりのある文章を聞いて答える）単語のつづり	4 12点	48.6	
読むこと (話すこと)	短い文章の読解	7 18点	48.7	52.1※
	長い文章の読解	8 13点	54.6※	
	対話文の流れの理解	9 13点	54.6※	
書くこと (話すこと)	文法及び文構造	5 15点	72.2	68.0※
	英語による自己表現（絵を見て状況を把握し、対話を完成する）	6 8点	47.0※	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

（３）結 果 の 説 明

全体の平均点は58.7点で、前年度と比べて3.0点低くなった。

領域・内容別の正答率は、聞くこと（話すこと）の「リスニングテスト（対話やまとまりのある文章を聞いて答える）」が83.9％と最も高かった。逆に、書くこと（話すこと）の「英語による自己表現（絵を見て状況を把握し、対話を完成する）」が47.0％と最も低かった。

また、次の表にあるように、正答率が高かったのは、大問**3**のNo.1「文章を聞いて英語を選ぶ」及び大問**5**の(4)「語順整序」であった。逆に、正答率が低かったのは、大問**7**の(2)①「内容と合う英語を補充する」及び大問**7**の(1)④「文脈に合わせて英語を補充する」であった。

無答率が高かったのは、大問**4**のNo.2①「文章を聞き、その内容を表す文の空欄に famous のつづりを完成する」及び大問**8**の(2)「英語の質問に英語で答える」であった。前年度に比して、読むことの正答率が約9ポイント低下したが、書くことの正答率は約12ポイント向上している。

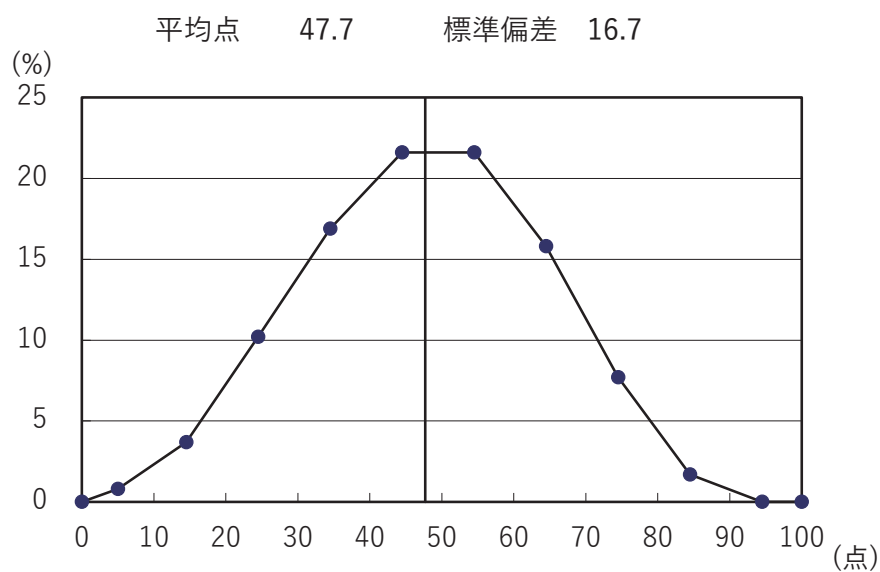
(4) 問題の内容

問			問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)
				選択	短答	記述		
1	No. 1		対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○			77.0	0.0
	No. 2		対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○			76.1	0.0
	No. 3		対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○			52.2	0.0
2	No. 1		対話を聞いて絵を選ぶ	○			83.3	0.1
	No. 2		文章を聞いて絵を選ぶ	○			54.1	0.0
3	No. 1		文章を聞いて英語を選ぶ	○			92.2	0.0
	No. 2		対話を聞いて英語を選ぶ	○			75.5	0.1
4	No. 1	①	文章を読み、その内容を表す文の空欄に welcome のつづりを完成する		○		50.7	19.4
		②	文章を読み、その内容を表す文の空欄に delicious のつづりを完成する		○		42.5	10.4
	No. 2	①	文章を読み、その内容を表す文の空欄に famous のつづりを完成する		○		51.0	30.4
		②	文章を読み、その内容を表す文の空欄に Saturday のつづりを完成する		○		50.0	15.5
5	(1)		動詞 use を形容詞 useful にする		○		46.6	2.5
	(2)		動詞 buy を過去形 bought にする		○		84.0	3.0
	(3)		語順整序 (How old is your sister?)	○			79.0	0.0
	(4)		語順整序 (I was very surprised at the news.)	○			87.3	0.1
	(5)		語順整序 (Do you know who they are?)	○			64.1	0.1
6	8点		英語による自己表現 (絵を見て状況を表現する) (解答例) I want to go to ABC Hotel, but I don't know where I am now. Could you tell me the way to get there, please? (25語)			○	15.0	
	5～7点						32.2	
	1～4点						25.1	
	無答							10.2
7	(1)	①	内容と合う数字を選ぶ	○			72.9	0
		②	内容と合う絵の組み合わせを選ぶ	○			74.9	0.0
		③	内容と合う英語を選ぶ	○			53.6	0.0
		④	文脈に合わせて英語を補充する		○		16.8	9.4
	(2)	①	内容と合う英語を補充する		○		11.7	9.7
		②	内容と合う英語を選ぶ	○			62.4	0.2
8	(1)		文脈に合わせて英語を適切な場所に補充する	○			54.7	0.3
	(2)	4点	英語の質問に英語で答える			○	34.9	
		1～3点					10.8	
		無答						27.3
	(3)		内容と合う絵を選ぶ	○			71.6	0.4
	(4)		内容と合う英語を選ぶ	○			51.8	0.9
9	(1)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○			75.8	0.1
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○			44.4	0.2
	(3)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○			66.2	0.4
	(4)	4点	英語による自己表現 (会話文の流れに合うよう表現する) (解答例) Can I go to your house to get it now? (10語)			○	17.1	
		1～3点					29.6	
		無答						26.0

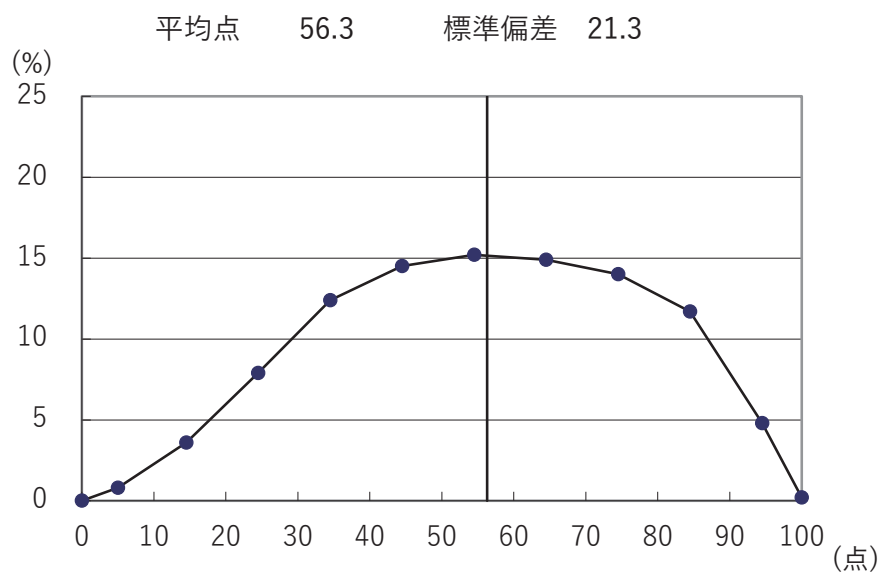
※ 無答率の「0.0%」はごくわずかなではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

IV 【本検査】受検者の得点分布

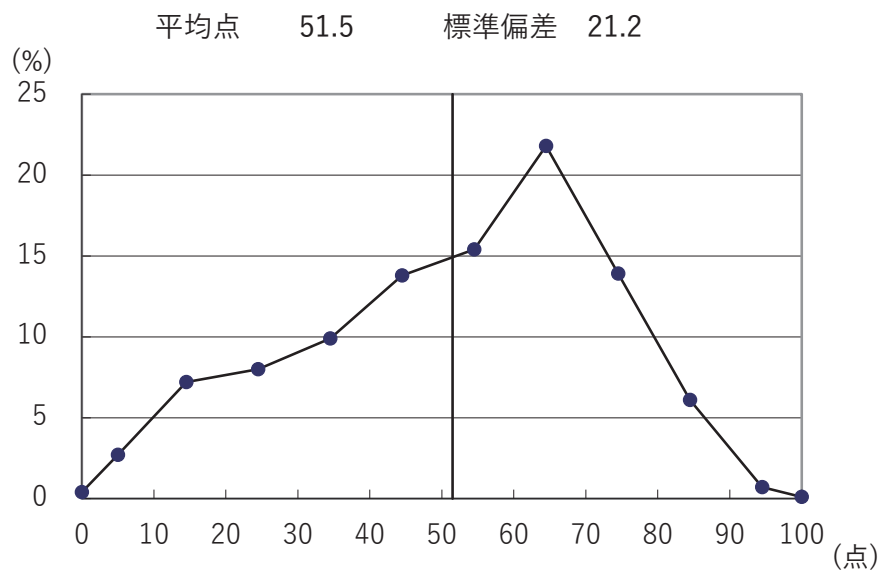
1 国語



2 社会

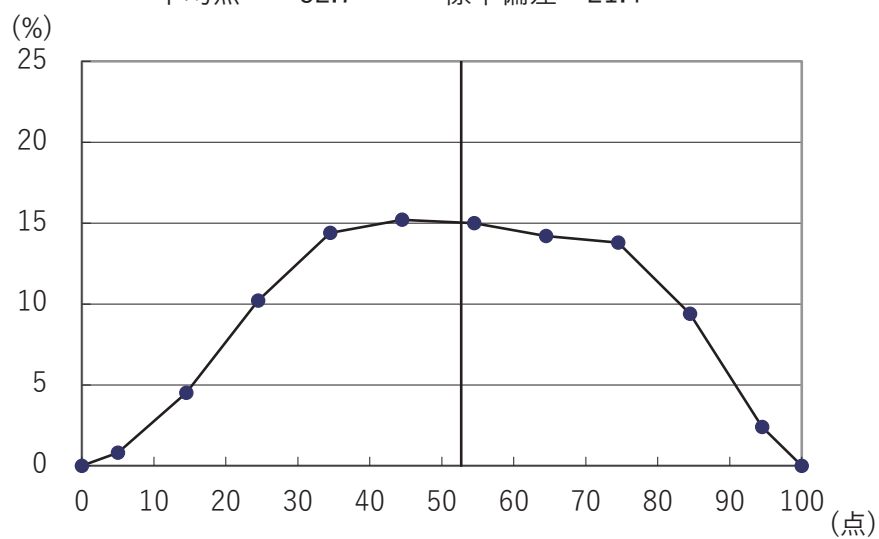


3 数学



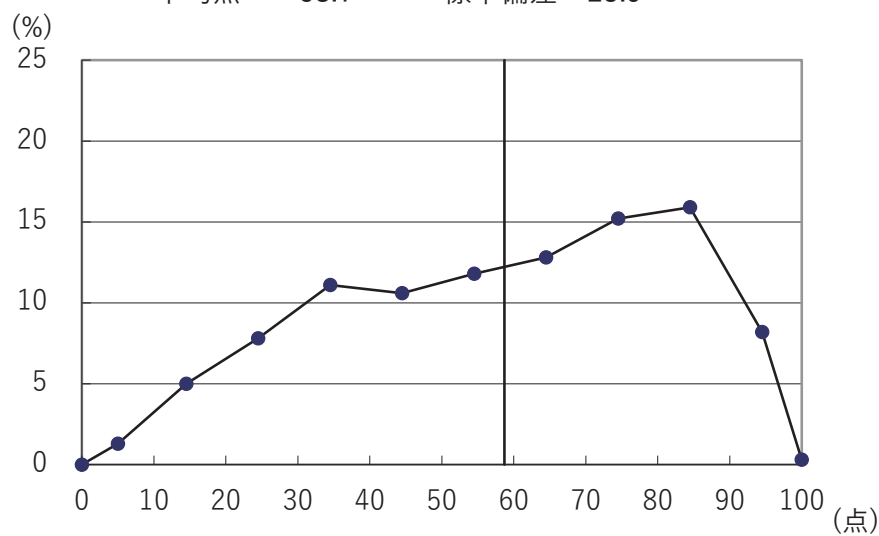
4 理科

平均点 52.7 標準偏差 21.4



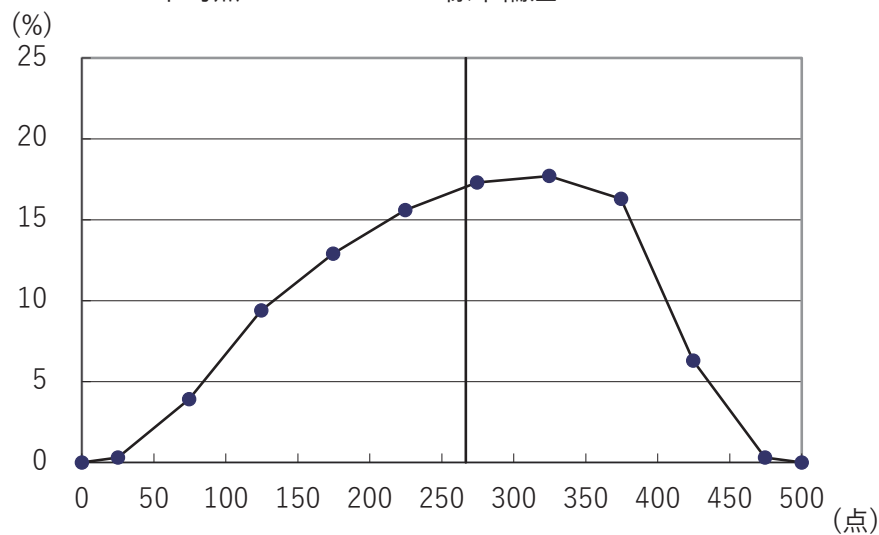
5 英語

平均点 58.7 標準偏差 23.9



6 5教科得点合計

平均点 266.7 標準偏差 94.3



V 【追検査】教科別の結果

1 国 語（追検査）

（１）出 題 内 容 等

学習指導要領の趣旨に沿って、基礎的・基本的な〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕が適切にみることができるようにした。

大問一（聞き取り検査）は、中学生二人が新入生歓迎会での部活動の発表の仕方について話し合っている場面を聞いて、他者に分かりやすく伝えるための方法や配慮すべき点を考える問題である。

大問四（説明的な文章）(5)は結論部分の筆者の主張をもとに具体例な内容をまとめ、表現する問題、大問五（文学的な文章）(6)及び大問六（古典）(5)は授業でそれぞれの文章を読んだ生徒の話合いの場面を別資料として提示し、複数資料の分析を通じてさらに深く読み解き、適切に自分の考えを表現する力をみる問題である。

大問七（条件作文）は、自分の住んでいる地域の魅力を他者に効果的に発信するための伝え方について、根拠を明確にしながら自分の考えを書く問題である。

（２）正 答 率 の 概 況

受検者数＝135

領 域（事 項）	問 題・配 点	正答率（％）
言葉の特徴や使い方に関する事項	二、三、四(1) 20点	55.2
情報の扱い方に関する事項	一(3)、五(6)、六(5) 15点	49.6※
我が国の言語文化に関する事項	六(1)(2)(3)(4) 11点	64.5
話すこと・聞くこと	一(1)(2)(4) 8点	53.7※
書くこと	七 12点	47.7※
読むこと	四(2)(3)(4)(5)(6)、五(1)(2)(3)(4)(5) 34点	41.4※

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

（３）結 果 の 説 明

全体の平均点は50.6点であった。

領域（事項）別の正答率は、「我が国の言語文化に関する事項」が64.5％と最も高く、次いで、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が55.2％であった。一方、「読むこと」が41.4％と最も低かった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題は、大問二「漢字（読み）」の(1)「努（める）」、大問一「放送による聞き取り」の(3)「発表に必要な資料の選択」及び大問三「漢字（書き）」の(1)「幼（い）」であった。逆に正答率が低かった問題は、大問三「漢字（書き）」の(4)「紅潮」、大問六の(5)(b)「登場人物の心情及び文章の内容の理解（15字以上、20字以内）」及び大問四の(5)「文章の内容の理解と表現（40字以上、50字以内）」であった。

無答率が高かった問題についても、同様に大問六の(5)(b)「登場人物の心情及び文章の内容の理解（15字以上、20字以内）」、大問四の(5)「文章の内容の理解と表現（40字以上、50字以内）」及び大問三「漢字（書き）」の(4)「紅潮」であった。

(4) 問題の内容

問		問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
			選 択	短 答	記 述				
一	(1)	放送による 聞き取り	会話の流れの理解	○		66.7	0		
	(2)		会話の流れの理解	○		56.3	0		
	(3)		発表に必要な資料の選択（完答）	○		84.4	0		
	(4)	新入生歓迎会での 部活動の発表の準備	提示資料の理解と表現 （１０字以上、１５字以内）		○	23.7	4.4		
						28.9			
二	(1)	漢字 （読み）	努（める）〔つと〕		○	91.9	0		
	(2)		模倣〔もほう〕		○	65.9	4.4		
	(3)		寸暇〔すんか〕		○	45.9	21.5		
	(4)		畏怖〔いふ〕		○	41.5	12.6		
三	(1)	漢字 （書き）	幼（い）		○	81.5	3.7		
	(2)		幹		○	47.4	22.2		
	(3)		拡散		○	55.6	8.9		
	(4)		紅潮		○	8.1	39.3		
	(5)		不敵		○	40.0	8.1		
四	(1)	説明的な文章 『あいまいな会話は なぜ成立するのか』	品詞の識別	○		74.1	0.7		
	(2)		文章の内容の理解	○		70.4	0		
	(3)		文章の内容の理解	○		48.9	0.7		
	(4)		文章の内容の理解	○		56.3	0.7		
	(5)		文章の内容の理解と表現 （４０字以上、５０字以内）		○	4.4	48.1		
						17.0			
(6)	文章の構成の理解	○		34.1	3.0				
五	(1)	文学的な文章 『つむじ風食堂の 夜』	文章中の表現の理解（２字）		○	64.4	1.5		
	(2)		登場人物の心情の理解	○		53.3	0.7		
	(3)		文章中の表現の効果	○		31.9	3.0		
	(4)		登場人物の心情の理解と表現 （３０字以上、４０字以内）		○	5.2	34.8		
						17.8			
	(5)		文章の構成の理解（完答）	○		28.1	3.7		
	(6)		(a)	文章中の表現の理解	○		45.2	3.0	
				(b)	文章の内容の理解（３字）		○	56.3	14.8
				(c)	文章中の表現の理解	○		60.0	4.4
六	(1)	古典 『今昔物語集』	漢文訓読法		○	60.0	3.7		
	(2)		歴史的仮名遣い		○	76.3	3.0		
	(3)		文章の内容の理解	○		55.6	1.5		
	(4)		登場人物の心情の理解	○		65.9	2.2		
	(5)		文章中の表現及び文章の内容の理解（１０字）		○	43.7	30.4		
						5.9			
						4.4			
	登場人物の心情及び文章の内容の理解と表現 （１５字以上、２０字以内）					54.8			
七	12点	条件作文 自分の住んでいる地 域の魅力の効果的な 伝え方について	資料をふまえての二段落構成の作文（２００字以内） ・前段は自分の住んでいる地域の魅力の伝え方を考えるに あたり、資料のうちのどの項目を取り上げるかを示し、 具体的な理由とともに書く。 ・後段はその魅力を他者に効果的に発信するためにはどの ような伝え方をしたら良いか、自分の考えを書く。		○	12.6	7.4		
	8～11点					31.1			
	4～7点					20.7			
	1～3点					5.9			
	無答								

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

2 社 会（追検査）

（１）出 題 内 容 等

各分野において、「基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができる問題」を出題した。

「現代社会の諸課題に対する関心や理解の程度をみることができる問題」を多く出題した。具体的には、大問 **3(2)**、大問 **6(2)**、大問 **6(3)**、大問 **8(1)**、大問 **8(2)**である。

「諸資料を活用し、社会的事象を判断・分析する力をみることができる問題」を多く出題した。具体的には、大問 **1(4)**、大問 **2(3)**、大問 **3(3)**、大問 **3(4)**、大問 **6(3)**である。

「社会的事象について、思考・表現する力をみることができる問題」を、地理的分野、歴史的分野、公民的分野からそれぞれ 1 問ずつ出題した。具体的には、大問 **2(3)**、大問 **4(2)**、大問 **7(3)**である。

総合問題と歴史的分野において、できごとなどを年代の古いものから順に並べ替える問題をそれぞれ 1 問ずつ出題した。具体的には、大問 **1(3)**、大問 **5(3)**である。

（２）正 答 率 の 概 況

受検者数＝166

分 野 ・ 内 容		問 題・配 点	正答率（％）	
総 合	総 合 問 題	1 1 2 点	4 5 . 2	
地理的分野	日 本 地 理	2 1 6 点	5 7 . 3※	5 7 . 1※
	世 界 地 理	3 1 5 点	5 6 . 9	
歴史的分野	前 近 代 史	4 1 6 点	5 4 . 9※	5 4 . 1※
	近 ・ 現 代 史	5 1 5 点	5 3 . 4	
公民的分野	国民生活と経済・社会	6 1 0 点	2 4 . 9	2 9 . 4※
	日 本 の 政 治 制 度	7 1 0 点	2 2 . 7※	
	国 際 社 会	8 6 点	4 6 . 4	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

（３）結 果 の 説 明

全体の平均点は 5 0 . 3 点であった。

分野・内容別の正答率は、地理的分野の「日本地理」が 5 7 . 3 %と最も高く、公民的分野の「日本の政治制度」が 2 2 . 7 %と最も低かった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題は、大問 **3(1)**「正距方位図法の特徴」、大問 **4(5)**「化政文化」、大問 **2(1)**「中部地方・近畿地方」であった。逆に正答率が低かった問題は、大問 **6(1)**「公的年金のしくみ」、大問 **7(3)**「内閣総辞職をした理由についての記述」、大問 **4(2)**「摂関政治についての記述」であった。

無答率が高かった問題は、大問 **7(1)**「司法権の独立」、大問 **8(2)**「常任理事国」、大問 **7(3)**「内閣総辞職をした理由についての記述」であった。

(4) 問題の内容

問			問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)
					選 択	短 答	記 述		
1	(1)		総合問題	ユネスコ	○			68.7	0
	(2)			アボリジニ（アボリジニー）		○		46.4	13.3
	(3)			17世紀から19世紀までのフランスの歴史にすることがら	○			38.6	0
	(4)			鉄鉱石、ぶどう、小麦、コーヒー豆及び羊毛の生産量の上位5か国を示したグラフの読み取り	○			27.1	0
2	(1)		日本地理	中部地方・近畿地方	○			71.7	0
	(2)	I		関東ローマ		○		55.4	12.7
		II		黒潮	○			62.0	0
	(3)	4点		地場産業についての記述			○	34.3	
		1～3点						12.7	
		無答							
	(4)			地形図の方位や地図記号等の読み取り	○			56.6	0
3	(1)		世界地理	正距方位図法の特徴	○			75.9	0
	(2)			ライン川		○		31.9	10.2
	(3)	符号		インド周辺の米と小麦の分布	○			53.0	0.6
		産業名		I C T（I T）産業		○		55.4	16.3
	(4)			アメリカ合衆国、インドネシア、ノルウェー、エジプトと日本の漁業生産量、養殖業生産量に関する資料の読み取り	○			68.1	0
4	(1)		前近代史	刀狩		○		70.5	3.6
	(2)	4点		摂関政治についての記述			○	19.3	
		1～3点						6.6	
		無答							
	(3)			御成敗式目（貞永式目）	○			68.7	0
	(4)			座	○			40.4	0
	(5)			化政文化	○			72.3	0
5	(1)		近・現代史	三国干渉	○			69.9	0
	(2)			大正時代のことがら	○			39.8	0
	(3)			昭和時代のことがら	○			34.9	0
	(4)			冷戦	○			63.9	0
	(5)			バブル経済（バブル景気）		○		58.4	8.4
6	(1)		経済	公的年金のしくみ	○	○		7.8	2.4
	(2)			大きな政府と小さな政府	○			28.3	0
	(3)			社会保障給付費と財源に関する資料の読み取り	○			38.6	0
7	(1)		政治	司法権の独立		○		28.3	29.5
	(2)			立法と行政	○			23.5	0.6
	(3)	4点		内閣総辞職をした理由についての記述			○	10.8	
		1～3点						10.8	
		無答							
8	(1)		国際	核兵器削減の取り組み	○			51.2	0
	(2)			常任理事国		○		41.6	25.3

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

3 数 学（追検査）

（１）出 題 内 容 等

新学習指導要領の全面実施にともない、本検査と同様に、追検査も問題構成を変更した。

大問 **１** は、各領域の基本的な問題である。**(3)** は、回転体の体積を求める問題、**(5)** は、二次方程式の解の意味を確認する問題、**(6)** は、正五角柱の頂点を移動する２つの点の動きを確認し、条件にあった確率を求める問題である。

大問 **２** の**(2)②** は、三角形の面積を２等分する直線を決定する問題である。

大問 **３** は、２つの三角形が相似であることを証明するとともに、図形の性質を利用して、三角形の面積を求める問題である。

大問 **４** は、正の整数を規則にしたがって並べたときに、見いだされる性質に関する問題である。題意を的確に読み取り、思考し、判断し、表現する力を問う問題となっている。

（２）正 答 率 の 概 況

受検者数＝135

領 域 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点	正 答 率 （％）	
数 と 式	正の数と負の数	1(1)① 5点	88.9	47.0※
	文字を用いた式	1(1)②、4 23点	34.0※	
	正の数の平方根	1(1)③ 5点	80.7	
	二次方程式	1(5) 6点	54.8	
図 形	平面図形	1(7)、3(1) 11点	26.7	26.4※
	空間図形	1(3)② 3点	33.3	
	図形の相似	3(2)、(3) 11点	9.5※	
	三平方の定理	1(3)① 3点	52.6	
関 数	一次関数	1(4)②、2 18点	20.6	26.1
	関数 $y = ax^2$	1(4)① 3点	48.1	
データの活用	代表値	1(2) 6点	30.4	32.1
	確率	1(6) 6点	35.6	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

（３）結 果 の 説 明

全体の平均点は38.6点であった。

領域・内容別の正答率は、数と式の「正の数と負の数」が88.9％と最も高く、図形の「図形の相似」が9.5％と最も低かった。

また、次の表にあるように、数と式の領域では、大問 **１** の**(1)**「正の数と負の数（四則計算）」の正答率が88.9％と最も高く、大問 **４** の**(3)**「文字を用いた式」の正答率が0％と最も低かった。

図形の領域では、大問 **１** の**(3)①**「三平方の定理」の正答率が52.6％と最も高く、大問 **３** の**(3)**「図形の相似（相似の応用）」の正答率が4.4％と最も低かった。

関数の領域では、大問 **１** の**(4)①**「関数 $y = ax^2$ （変化の割合）」の正答率が48.1％と最も高く、大問 **２** の**(2)②**「一次関数（一次関数のグラフ、点の座標）」の正答率が0.7％と最も低かった。

データの活用の領域では、大問 **１** の**(2)①**「データの分布（平均値）」の正答率が43.0％と最も高く、大問 **１** の**(2)②**「データの分布（範囲）」の正答率が17.8％と最も低かった。

無答率が高かった問題は、大問 **４** の**(2)**、及び**(3)**「文字を用いた式」、大問 **２** の**(2)②**「一次関数（一次関数のグラフ、点の座標）」であった。

(4) 問題の内容

問			問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)
					選 択	短 答	記 述		
1	(1)	①	数と式	正の数と負の数（四則計算）		○		88.9	0
		②		文字を用いた式（一次式の計算）		○		87.4	0.7
		③		正の数の平方根（根号を含む式の計算）		○		80.7	2.2
	(2)	①	データ	データの分布（平均値）		○		43.0	8.9
		②		データの分布（範囲）		○		17.8	21.5
	(3)	①	図形	三平方の定理		○		52.6	5.9
		②		空間図形（回転体の体積）		○		33.3	19.3
	(4)	①	関数	関数 $y = ax^2$ （変化の割合）		○		48.1	5.2
		②		一次関数（一次関数の式）		○		43.0	17.0
	(5)	①	数と式	二次方程式（二次方程式の意味）		○		62.2	8.1
		②		二次方程式（解の公式）		○		47.4	19.3
(6)		データ	不確定な事象の起こりやすさ（確率）		○		35.6	14.8	
(7)		図形	平面図形（作図）			○	26.7	33.3	
2	(1)		関数	一次関数（一次関数のグラフ、点の座標）		○		30.4	19.3
	(2)	①		一次関数（一次関数のグラフ、直線の傾き）		○		8.1	43.0
		②		一次関数（一次関数のグラフ、点の座標）		○		0.7	69.6
3	(1)		図形	平面図形（平面図形の性質）		○		26.7	20.7
	(2)	6点		図形の相似（三角形の相似の証明）			○	10.4	
		3点					○	8.1	
		無答							40.0
(3)			図形の相似（相似の応用）		○		4.4	62.2	
4	(1)	①	数と式	文字を用いた式		○		57.8	9.6
				文字を用いた式		○		57.8	12.6
		②		文字を用いた式		○		28.9	37.8
				文字を用いた式		○		4.4	58.5
	(2)	4点		文字を用いた式			○	1.5	
		2点					○	0	
		無答							85.9
	(3)				文字を用いた式		○		0

※ 無答率の「0. 0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

4 理 科（追検査）

（１）出 題 内 容 等

学習指導要領に基づいて、基礎的・基本的な知識・技能の習得、理科の見方・考え方や思考力・判断力・表現力を身に付けているかをみることができるようにした。本年度も「観察・実験を題材とした問題」、「身近な生活に関わりのある問題」を出題した。小問集合以外では、「観察・実験を題材とした問題」は大問 **２・３・５・６・７・８・９**、「身近な生活に関わりのある問題」は大問 **２・４・８**である。表現力をみる問題として、理由を自分の言葉で説明する記述式の問題や、作図の問題を取り入れている。記述式は、本年度の本検査５問に対し、本年度の追検査は３問である。作図やグラフは、本年度の本検査２問に対し、本年度の追検査は２問である。

（２）正 答 率 の 概 況

受検者数＝136

分 野 ・ 内 容			問 題 ・ 配 点	正 答 率 （％）	
第 1 分 野	物 理	直流	1(1) 3点	42.6	39.6
		運動とエネルギー	3 10点	42.8	
		身近な物理現象	7 12点	35.7	
	化 学	中性子	1(2) 3点	36.8	34.8
		身の回りの物質	5 10点	30.3	
		化学変化と原子・分子	9 12点	39.9	
第 2 分 野	生 物	やく	1(3) 3点	50.7	44.6
		生物の体のつくりとはたらき	4 12点	46.4	
		生命の連続性	6 10点	41.4	
	地 学	積乱雲	1(4) 3点	83.1	48.0
		大地の成り立ちと変化	2 12点	53.1	
		地球と宇宙	8 10点	32.8	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

（３）結 果 の 説 明

全体の平均点は45.1点であった。

大問**1**は各分野の基礎的・基本的な知識を問う小問集合であり、正答率の平均が53.3％であった。大問**1**以外の分野・内容別の正答率は、第2分野・地学の大問**2**「大地の成り立ちと変化」が53.1％と最も高く、次いで第2分野・生物の大問**4**「生物の体のつくりとはたらき」が46.4％であった。逆に、第1分野・化学の大問**5**「身の回りの物質」が30.3％と最も低かった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題（ただし、各分野の小問集合である大問**1**を除く）は、大問**2**の(4)①「南鳥島をのせたプレートの名称」、大問**2**の(1)「しゅう曲」、大問**3**の(2)「慣性の法則」及び大問**5**の(4)「蒸留」であった。逆に、正答率が低かった問題は、大問**5**の(2)「温度計の位置〔作図〕」、大問**9**の(4)「途中で反応をやめたときの銅の質量〔計算〕」及び大問**5**の(1)(b)「混合物の例」であった。

無答率が高かったのは、大問**9**の(4)「途中で反応をやめたときの銅の質量〔計算〕」、大問**8**の(3)「黒点の大きさ〔計算〕」及び大問**5**の(1)(a)「エタノールの密度〔計算〕」であった。

(4) 問題の内容

問	問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)
		選択	短答	記述		
1	(1) 直流		○		42.6	16.9
	(2) 中性子		○		36.8	8.1
	(3) やく		○		50.7	7.4
	(4) 積乱雲	○			83.1	0
2	(1) しゅう曲		○		69.1	8.1
	(2) サンゴができた環境			○	57.4	8.1
	(3) 震源の深さによる震央の分布	○			36.0	0.7
	(4) ① 南鳥島をのせたプレートの名称	○			72.1	0
		○			30.9	2.9
3	(1) 平均の速さ〔計算〕		○		30.9	8.8
	(2) 慣性の法則		○		60.3	11.8
	(3) 球が到達するまでの時間〔計算〕		○		25.7	22.1
	(4) 斜面の傾きを小さくしたときの球の運動	○			54.4	0.7
4	(1) ヘモグロビンの性質			○	55.9	14.0
	(2) 組織液と細胞の酸素の取り入れ方	○			53.7	1.5
	(3) ① 静脈とその特徴	○	○		39.0	2.2
		○			36.8	0.7
5	(1) (a) エタノールの密度〔計算〕		○		22.1	30.1
		○			5.9	0.7
	(2) 温度計の位置〔作図〕			○	5.1	13.2
	(3) 蒸留の結果からわかること	○			58.1	0.7
	(4) 蒸留		○		60.3	10.3
6	(1) 無性生殖	○			51.5	0.7
	(2) 双子葉類の根の特徴		○		59.6	16.9
	(3) ① 葉と同じ染色体の数をもつもの	○			22.1	0.7
				○	32.4	23.5
7	(1) 実像の大きさ	○			40.4	0
	(2) スクリーン上にできる実像の形	○			48.5	0
	(3) 虚像のできる位置〔作図〕			○	31.6	18.4
	(4) 光を通さないときの実像の見え方	○	○		22.1	8.1
8	(1) 太陽の特徴	○			57.4	0.7
	(2) 黒点の見え方の原理	○			32.4	0.7
	(3) 黒点の大きさ〔計算〕		○		9.6	33.1
	(4) 観察を行った時期	○			31.6	7.4
9	(1) 還元		○		58.1	12.5
	(2) ピンチコックで閉じる理由	○			51.5	3.7
	(3) 酸化銅の還元を表したモデル	○			44.9	4.4
	(4) 途中で反応をやめたときの銅の質量〔計算〕		○		5.1	44.1

※ 無答率の「0. 0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

5 英 語（追検査）

（１）出 題 内 容 等

出題内容は、知識や理解力をみる基礎・基本の問題及び、活用・応用として「思考力・判断力・表現力」をみる問題を出題した。「思考力・判断力・表現力」をみる問題に該当するのは、大問**4**No.2①、大問**6**、大問**7**(1)③、大問**7**(2)①及び大問**9**(4)である。

大問**4**No.2①はリスニング問題で、英語の文章を聞き、その内容について答える問題である。聞いた内容を「理解」した上で、まとめの文を完成させるために適切な単語を「思考・判断」して書く形式になっている。

大問**6**は英作文問題で、絵を見て状況を「理解」し、絵の中の人物の立場に立って「思考・判断」し、英文で適切に「表現」する問題であり、実践的なコミュニケーションをより強く意識した問題となっている。

大問**7**(1)③、大問**7**(2)①及び大問**9**(4)は、英文から複数の情報を正しく読み取り、内容を「理解」したうえで「思考・判断」し、適切に「表現」する問題になっている。

（２）正 答 率 の 概 況

受検者数＝135

領 域 ・ 内 容		問題・配点	正答率（％）	
聞くこと (話すこと)	リスニングテスト（対話を聞いて答える）	1 9点	55.0	51.1
	リスニングテスト（聞いて絵を見て答える）	2 6点	64.5	
	リスニングテスト （対話やまとまりのある文章を聞いて答える）	3 6点	55.6	
	リスニングテスト（まとまりのある文章を聞いて答える）単語のつづり	4 12点	39.3	
読むこと (話すこと)	短い文章の読解	7 18点	43.7	41.8※
	長い文章の読解	8 13点	38.4※	
	対話文の流れの理解	9 13点	42.3※	
書くこと (話すこと)	文法及び文構造	5 15点	38.8	36.9※
	英語による自己表現（絵を見て状況を把握し、対話を完成する）	6 8点	27.3※	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

（３）結 果 の 説 明

全体の平均点は46.9点であった。

領域・内容別の正答率は、聞くこと（話すこと）の「リスニングテスト（聞いて絵を見て答える）」が64.5％と最も高かった。逆に、書くこと（話すこと）の「英語による自己表現（絵を見て状況を把握し、対話を完成する）」が27.3％と最も低かった。

また、次の表にあるように、正答率が高かったのは、大問**3**のNo.2「対話を聞いて英語を選ぶ」及び大問**4**のNo.1②「文章を聞き、その内容を表す文の空欄に interesting のつづりを完成する」であった。逆に、正答率が低かったのは、大問**7**の(2)①「内容と合う英語を補充する」及び大問**5**の(1)「動詞 visit を 名詞 visitor にする」であった。

無答率が高かったのは、大問**9**の(4)「英語による自己表現（会話文の流れに合うよう表現する）」及び大問**8**の(4)「英語の質問に英語で答える」であった。

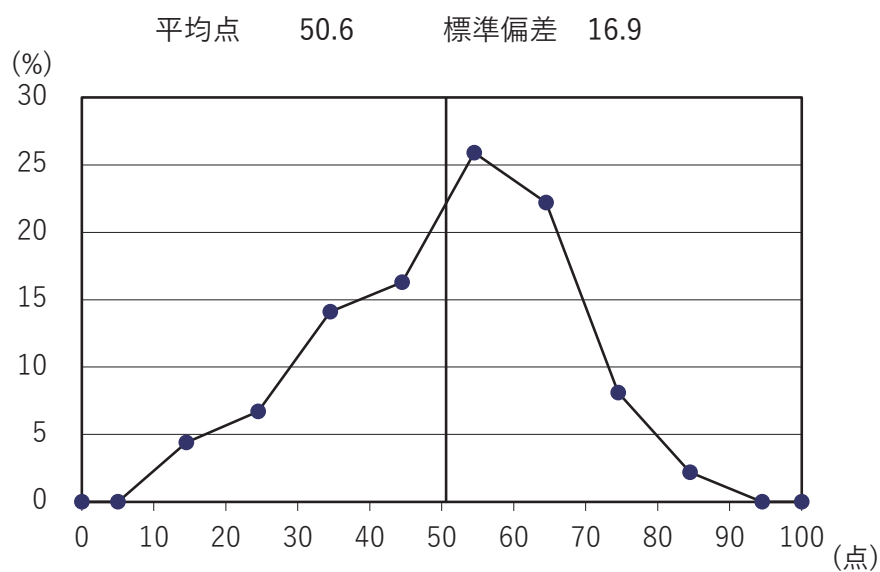
(4) 問題の内容

問			問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
				選 択	短 答	記 述				
1	No. 1		リスニング	対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○			64.4	0	
	No. 2			対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○			58.5	0	
	No. 3			対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○			42.2	0	
2	No. 1			対話を聞いて絵を選ぶ	○			57.8	0	
	No. 2			文章を聞いて絵を選ぶ	○			71.1	0	
3	No. 1			文章を聞いて英語を選ぶ	○			37.0	0	
	No. 2			対話を聞いて英語を選ぶ	○			74.1	0	
4	No. 1	①		文章を聞き、その内容を表す文の空欄に uncle のつづりを完成する		○		27.4	31.9	
		②		文章を聞き、その内容を表す文の空欄に interesting のつづりを完成する		○		73.3	8.9	
	No. 2	①		文章を聞き、その内容を表す文の空欄に April のつづりを完成する		○		12.6	20.0	
		②		文章を聞き、その内容を表す文の空欄に dictionary のつづりを完成する		○		43.7	25.2	
5	(1)		文法・文構造	動詞 visit を名詞 visitor にする		○		11.9	0	
	(2)			動詞 hold を過去分詞 held にする		○		57.8	3.0	
	(3)			語順整序 (How far is it from here to your house?)	○			37.8	1.5	
	(4)			語順整序 (I want him to be kind to everyone.)	○			31.9	0	
	(5)			語順整序 (I don't know when I should talk to her.)	○			54.8	0	
6	8点		自己表現	英語による自己表現 (絵を見て状況を表現する) (解答例) You should visit the park. There is a restaurant to eat lunch. Also you can see flowers there. It takes only 10 minutes from here. (25語)			○	4.4		
	5～7点							20.7		
	1～4点							23.7		
	無答								28.1	
7	(1)	①	短文読解	内容と合う英語の組み合わせを選ぶ	○			60.0	0	
		②		内容と合う絵を選ぶ	○			71.1	0.7	
		③		内容と合う英語を補充する		○		28.9	10.4	
		④		内容と合う英語を選ぶ	○			63.7	0	
	(2)	①		内容と合う英語を補充する		○		8.1	11.9	
		②		内容と合う英語を選ぶ	○			30.4	0	
8	(1)		長文読解	文脈に合わせて英語を適切な場所に補充する	○			60.7	0	
	(2)			内容と合う数字の組み合わせを選ぶ	○			39.3	0	
	(3)			内容と合う英語を選ぶ	○			27.4	0	
	(4)	4点		英語の質問に英語で答える				○	13.3	
		1～3点						25.9		
		無答							35.6	
9	(1)		対話文読解・表現	文脈に合わせて英語を選ぶ	○			59.3	0	
	(2)			文脈に合わせて英語を選ぶ	○			46.7	0.7	
	(3)			文脈に合わせて英語を選ぶ	○			46.7	0	
	(4)	4点		英語による自己表現 (会話文の流れに合うよう表現する) (解答例) I'm starting to relax, so I'll practice hard for tomorrow. (10語)				○	6.7	
		1～3点						19.3		
		無答								49.6

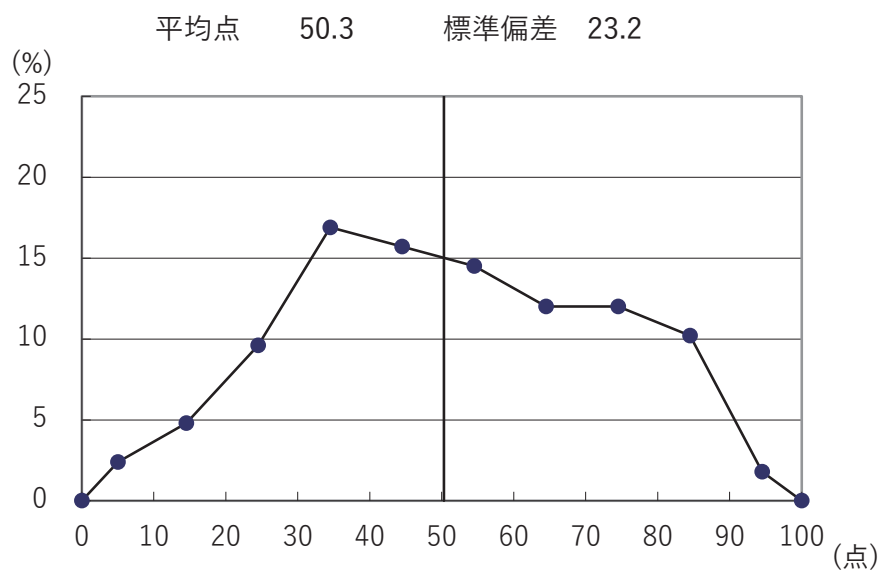
※ 無答率の「0. 0 %」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0 %」は該当者がいない場合である。

VI 【追検査】受検者の得点分布

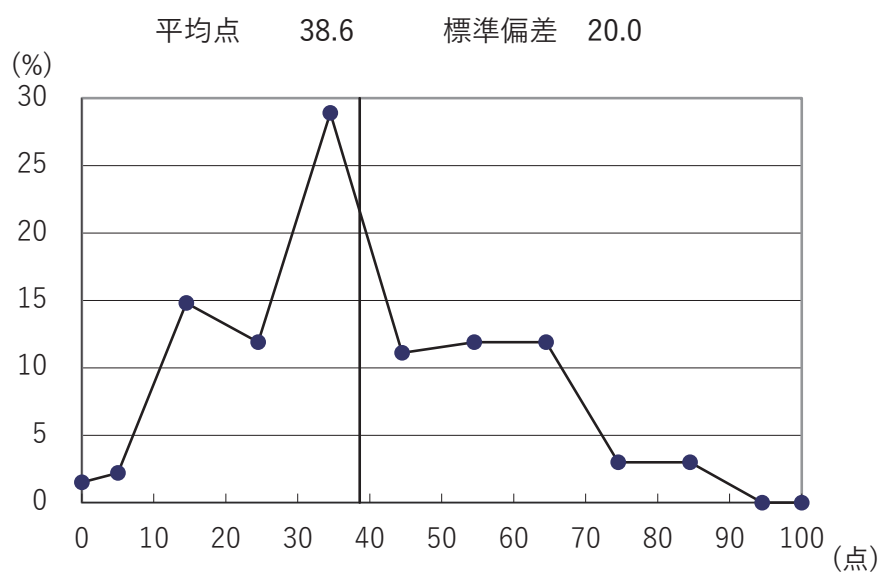
1 国語



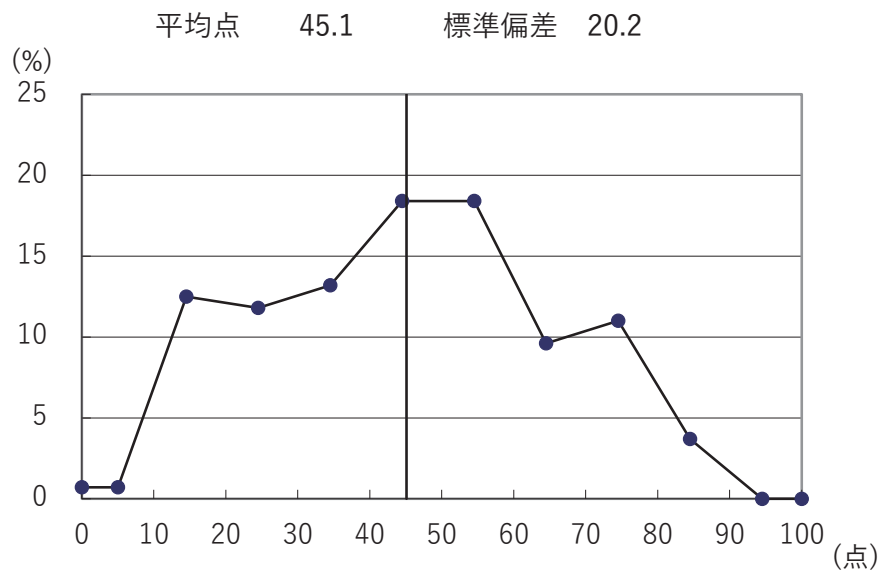
2 社会



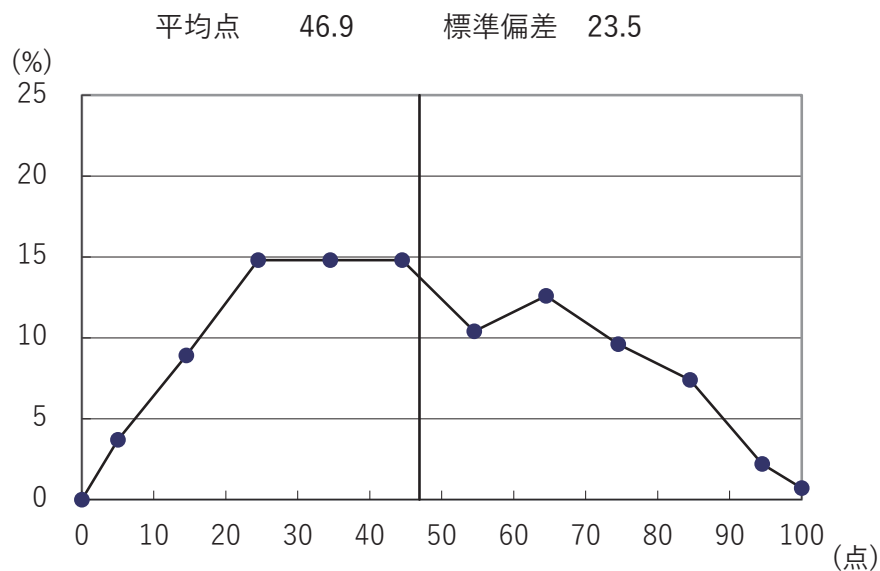
3 数学



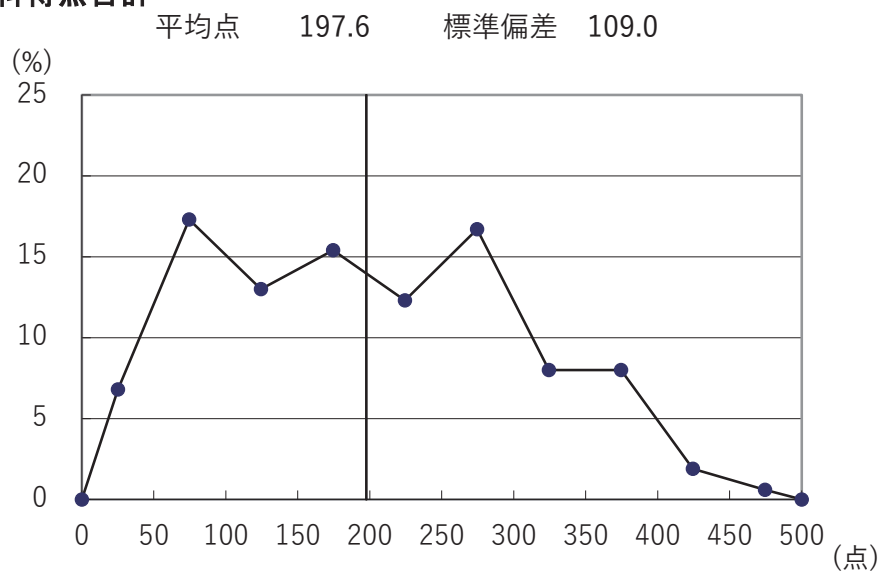
4 理科



5 英語



6 5教科得点合計



Ⅶ 指導のポイント

令和4年度千葉県公立高等学校入学者選抜における学力検査の結果から、「本県の生徒に身に付けさせたい力」をふまえた指導のポイントを教科ごとにまとめた。確かな学力の定着を図るために、今後の学習指導方法の工夫や授業改善に御活用願いたい。

1 国語

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」
「我が国の言語文化に関する事項」

【分析】

「我が国の言語文化に関する事項」の正答率は本検査、追検査とも良好である。「情報の扱い方に関する事項」は正答率が低く、特に本検査の大問五(5)(c)と大問六(5)(b)は無答率も高い。文章中の表現及び登場人物の心情を理解し、自分の言葉で表現することに課題がみられる。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」においては、抽象的な概念を表す語や四字熟語の習得が不十分である。

【指導のポイント】

辞書の活用や読書によって、語彙力を高め、語彙や四字熟語に関心を持たせたり、話合いや短文作り等の活動を通して、豊かな表現力を育む言語活動を設定し、生活の中で適切に使いこなせるように習熟させたりすることが大切である。また、複数の情報を提示し、文章全体の情報と別資料として提示された情報との関係を適切に整理する方法について理解を深める指導、さらにそれらを活用する指導をこれまで以上に継続していくことが必要である。

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」

【分析】

本検査における「話すこと・聞くこと」の正答率はここ数年安定しているが、小問としては追検査の大問一(4)の記述問題の正答率が低い。「書くこと」の条件作文では昨年度の本検査より正答率が低く、複数の情報を整理・分析し、それらを踏まえて自分の意見を理由とともに記述することに課題がみられる。「読むこと」については、本検査の大問四(3)及び大問五(4)の記述問題の正答率が低い。文章の内容を理解して適切に自分の考えを表現することに課題がみられる。

【指導のポイント】

「話すこと・聞くこと」に関しては、今後とも話合い等を通して、聞き取った内容について正確に理解し、その上で自分の考えをまとめさせることが大切である。また、根拠を示しながら進める議論や討論などの言語活動を定期的に設けることも必要である。それとともに、「書くこと」及び「読むこと」の指導において、根拠を明確にしながら条件に従って記述する力を育む指導を行うことで、自分の考えを論理的に表現する力が育成される。特に複数の資料から読み取ったことを自分の言葉でまとめ、記述させる指導を盛り込む必要がある。加えて、記述力を向上させるために、日頃から授業のまとめや感想を短い文章で表す場を設け、記述すること自体への抵抗感を緩和する取組を継続していくことが望まれる。

2 社 会

○「地理的分野」

【分析】

地理的分野の全体にわたり、概ね正答率は良好である。基礎的・基本的な知識・技能では、特に基本的な地形図の読み取りに関することから（本検査：大問 2 (4)①・②）は正答率が高い。一方で、世界地図の特徴と読み取りに関する問題（本検査：大問 3 (1)）では正答率が低い。

【指導のポイント】

基礎的・基本的な知識や地図・資料活用の技能の定着を図り、それを基に諸資料を活用する力を身に付けさせることが大切である。景観写真や統計から地理的事象や地域的特色を読み取らせる活動を通して、様々なことから視野を広げ、読み取ったことを相互に関連付けて考察することで、地理的事象の仕組みや原因、他地域との関わりなどについて理解させることが大切である。

○「歴史的分野」

【分析】

歴史的分野の全体にわたり、概ね正答率は良好である。基礎的・基本的な知識・技能では、写真などの資料から室町時代の文化について答える問題（本検査：大問 4 (5)）で正答率が高い。一方で、指定された語句を用いるなどして自らの言葉で説明する問題（本検査：大問 5 (5)）で正答率が低く、無答率も高い。

【指導のポイント】

歴史の大きな流れをつかみ、基礎的・基本的な知識の定着を図ることが大切である。それぞれの関連性や因果関係などを理解するために、年表や図を用いて簡潔に自分の言葉でまとめ、表現する活動が有効である。こうした活動を通して歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を探究する力を身に付けられるように指導することが大切である。

○「公民的分野」

【分析】

公民的分野の全体にわたり、概ね正答率は良好であるが、基礎的・基本的な知識の定着にやや不十分なところがみられる。空欄にあてはまる適切な語を答える問題（本検査：大問 6 (2)）、国際社会における取組について適切な語と内容を答える問題（本検査：大問 8 (2)）で正答率が低い。

【指導のポイント】

主権者教育の観点から、新聞やインターネットなどを活用して、時事的な問題への興味・関心を高めることや、複数の資料を活用し、様々な公民的な事象と関連付けて学習を深めることが大切である。例えば、授業の内容と関連した新聞記事を用い、社会の動きと学習内容とを関連付けて考えさせる活動を通して、学習内容が身近なものであることに気付かせ、主体的に考えさせる指導が必要である。

3 数 学

○「数と式」

【分析】

正の数と負の数（四則計算）、正の数の平方根（根号を含む式の計算）については正答率が概ね良好であるが、文字を用いた式、二次方程式（解の公式）、正の数と負の数（素数）に課題がみられる。

【指導のポイント】

数を拡張しながらその概念について理解を深めるとともに、文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりするなど、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる指導が大切である。また、具体的な事象の数量関係から方程式を立てたり、その解を吟味したりするなど、事象と関連付ける活動をより一層充実させる必要がある。

○「図形」

【分析】

本検査において、平面図形（作図）については正答率が昨年度よりも向上し、概ね良好であるが、昨年度同様、証明問題や平面図形（相似の応用）については課題がみられる。

【指導のポイント】

観察や操作などの活動を通して、見通しをもって作図したり図形の関係について調べたりするなど、考察を促す指導が必要である。また、証明問題については、証明を振り返り、条件がどのように用いられていたかを確認するといったような活動を通して、論理的に考察する力を養うことが大切である。

○「関数」

【分析】

本検査、追検査ともに他の領域と比べ、正答率が低い。特に、思考力、判断力、表現力等を問う問題に課題がみられる。

【指導のポイント】

具体的な事象を数学的に解釈し、変化の特徴を見いだしたうえで、式やグラフなどを用いながら他者に説明するような場面を積極的に設けることで、思考力、判断力、表現力等を育てることが大切である。また、グラフについては、ICTを活用するなど視覚的に捉えさせるような工夫が必要である。

○「データの活用」

【分析】

中央値を求める問題の正答率は概ね良好であるが、箱ひげ図で表すことや四分位範囲に関わる問題において課題がみられる。

【指導のポイント】

日常の事象を題材として取り上げ、四分位範囲や箱ひげ図で表すことの必要性和意味を理解させるとともに、箱ひげ図などを用いて複数のデータの分布の傾向を比較して読み取った考察内容を、自ら表現するといったような活動が大切である。

4 理 科

○「第1分野・物理的領域」

【分析】

基礎的・基本的な知識・技能の正答率は概ね良好である。実験装置を理解し、測定結果を正確に読み取り、知識を活用しながら作図や計算をして思考することに課題がみられる。

【指導のポイント】

実験装置を思考しながら組み立て、電気や光などの現象を理解させ、実験結果をグラフや図で表現させる指導が必要である。また、実験結果の数的な変化を実際に計算して考察させることで、物理現象について理解を深めることが大切である。

○「第1分野・化学的領域」

【分析】

基礎的・基本的な知識・技能の正答率は概ね良好である。一方、物質の特徴を整理して理解すること、化学変化について化学反応式で表現すること、及び反応前後の物質の量について計算して、数値をもとに考察することに課題がみられる。

【指導のポイント】

原子や分子、同位体などの物質の特徴を、図や文章で整理して理解させ、化学変化について、物質の質量、体積、密度などの数値をもとに変化の理由を考察させる指導が必要である。また、実験を行い、反応を化学反応式や文章で表現させることで、化学変化について理解を深めていくことが大切である。

○「第2分野・生物的領域」

【分析】

基礎的・基本的な知識・技能の正答率は概ね良好である。体のつくりとはたらきについて、多面的に捉え、仕組みや現象の流れを思考することに課題がみられる。

【指導のポイント】

生物の体の部分やはたらきごとに条件を整理し、違いを図や文章で表現させる指導が必要である。神経と運動などのように観察や実験で得られた結果を、既習の知識と比較し関連付けて考察させることで、生物の体のつくりとはたらきについて理解を深めていくことが大切である。

○「第2分野・地学的領域」

【分析】

基礎的・基本的な知識・技能の正答率は概ね良好である。資料や文章で表現された地学現象を正確に読み取り、既習の知識を活用して思考し、作図や計算をすることに課題がみられる。

【指導のポイント】

実験や観測の仕組みを作図するなどして理解し、気象庁などの観測結果を活用して学習させる指導が必要である。天体の運動や気象について、数時間後の天体の位置や天気などの時間的・空間的な変化を、作図や計算をさせることで、地学現象について理解を深めていくことが大切である。

5 英 語

○「聞くこと（話すこと）」

【分析】

基礎的・基本的な知識及び技能の定着は概ね良好であるが、大問 4「文章を聞き、その内容を表す文の空欄に英単語のつづりを完成する」では無答率が高い。

【指導のポイント】

授業中のコミュニケーション活動において、様々な場面や状況を設定したり、発問のパターンを変えたりするなどの工夫を凝らすことで、対話や文章の内容を正確に聞き取り、その要旨をつかむ力を育むことが大切である。

○「読むこと（話すこと）」

【分析】

大問 7 及び 8 の読解では、プレゼンテーションの原稿やレポートなどを読み、文脈に合わせて英語を補充する問題及び英語の質問に英語で答える問題についての正答率が低い。また、大問 9 (4)「英語による自己表現」は、対話文を読み取り、その対話の流れに沿った英語を書く問題であるが、難度が高く、無解答が目立つ。

【指導のポイント】

文の流れをつかみながら正確に読む力を身に付けるために、ディスコースマーカー（because、however、for example など）を意識して読む練習を取り入れるなどの工夫が必要である。さらに、様々な話題の英文に触れることで、それぞれの英文から読み取れる情報を表にするなどして整理する力や、段落ごとの要旨をつかむ力を身に付けさせることが大切である。

○「書くこと（話すこと）」

【分析】

大問 6 は、4 コマのイラストからその場面や状況を捉え、会話を完成させる問題であるが、無答率が高い。

【指導のポイント】

あえて難しい単語を用いて書こうとせず、知っている単語や文法を駆使すれば、意図する内容を表現することができると、指導していくことが大切である。單元ごとに本文の内容をまとめさせたり、1 枚の絵を見せてそれを説明させたりする活動を通して、自らの言葉で意図する内容を表現する方法を習得させる必要がある。